

ヌード

そのヌードには、秘密がある。



Tate. Presented by Lord Ivor Spencer Churchill through the Contemporary Art Society 1990. Image © Tate, London 2017

ヒュー・ボナール《浴者》 1925年 油彩／カンヴァス 86×120.6cm

NUDE

英国 テート・コレクションより

ART FROM THE TATE COLLECTION

2018.3.24 (Sat) — 6.24 (Sun) 主催：横浜美術館、読売新聞社、テート

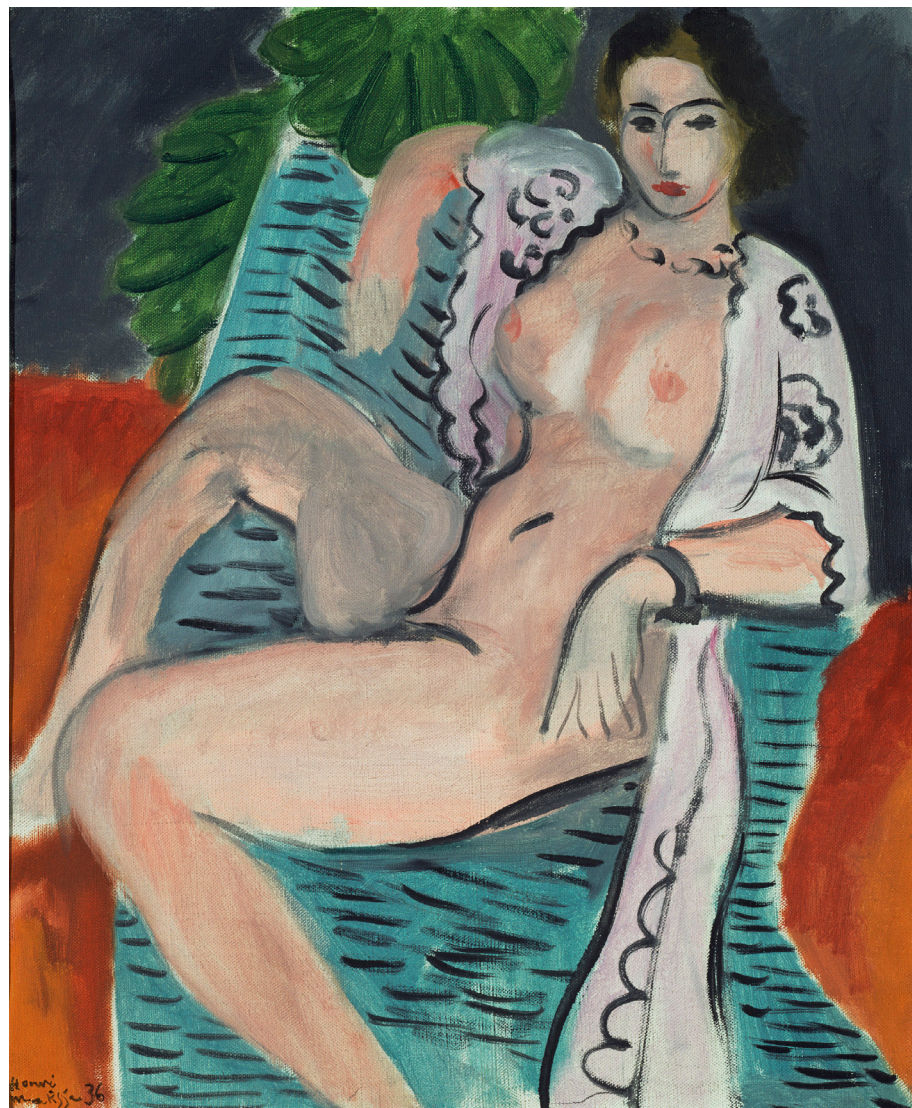
 横浜美術館 YOKOHAMA MUSEUM OF ART

PRESS RELEASE



ヌード——人間にとって最も身近といえるこのテーマに、西洋の芸術家たちは絶えず向き合い、挑み続けてきました。美の象徴として、愛の表現として、また内面を映し出す表象として、ヌードはいつの時代においても永遠のテーマとしてあり続け、ときに批判や論争の対象にもなりました。

本展は、世界屈指の西洋近現代美術コレクションを誇る英国テートの所蔵作品により、19世紀後半のヴィクトリア朝の神話画や歴史画から現代の身体表現まで、西洋美術の200年にわたる裸体表現の歴史を紐ときます。フレデリック・ロード・レイトンが神話を題材として描いた理想化された裸体から、ボナールらの室内の親密なヌード、男女の愛を永遠にとどめたロダンの大理石彫刻《接吻》[日本初公開]やシュルレアリスムの裸体表現、人間の真実に肉迫するフランシス・ベーコン、さらにはバークレー・L・ヘンドリックスやシンディ・シャーマンなど、現代における身体の解釈をとおして、ヌードをめぐる表現がいかにか時代とともに変化し、また芸術表現としてどのような意味をもちうるのか、絵画、彫刻、版画、写真など約130点でたどります。



アンリ・マティス《布をまとう裸婦》1936年 油彩/カンヴァス 45.7×37.5 cm

Tate: Purchased 1959, image © Tate, London 2017

① テーマは「ヌード」。西洋の芸術家たちの挑戦の軌跡を追う。

「ヌード」は西洋の芸術家たちが絶えず向き合ってきた永遠のテーマです。しかし、「ヌード」をテーマにした大規模な展覧会は前例が少なく、挑戦的な試みです。本展は、この難しいテーマに意欲的に取り組み、ヴィクトリア朝から現代までのヌードの歴史を辿ります。

② 近現代美術の殿堂、英国テートからヌードの傑作が集結。

1897年の開館以来、世界屈指の近現代美術コレクションと先進的な活動で常に美術界をリードしてきたテート。その至高の作品群よりヌードを主題とした作品が集結します。ロダンの大理石彫刻《接吻》をはじめ、ターナーが描いた貴重なヌード作品や、マティス、ピカソ、ホックニーなど19世紀後半から現代まで、それぞれの時代を代表する芸術家たちの作品が出品されます。

③ ロダンの大理石彫刻《接吻》が日本初公開！

ロダンの代表作であり、男女の愛を永遠にとどめた《接吻》。情熱に満ち、惹かれ合うふたりの純粋な姿が、甘美な輝きに包まれています。「恋愛こそ生命の花です」、こう語るロダンにとって、愛することは生きることそのものであり、また制作の原点であったといえるでしょう。ブロンズ像で広く知られる《接吻》ですが、高さ180センチ余りのスケールで制作された迫力の大理石像は世界にわずか3体限り。そのうちの一体がついに日本初公開です。

*高村光太郎訳「ロダンの言葉抄」より



パブロ・ピカソ《首飾りをした裸婦》1968年 油彩/カンヴァス 113.5×161.7 cm

Tate: Purchased 1983 ©2017-Succession Pablo Picasso-SPDA(JAPAN), image © Tate, London 2017

1

物語とヌード

Historical Nude

19世紀イギリス、ヴィクトリア朝時代の作品を中心に紹介する本章では、古典文学や神話、聖書に題材を求める歴史画において、裸体表現がいかに重要な役割を担ったかについて考えます。裸体の描写自体が許されていなかった当時の社会風土のなか、歴史画は唯一、ヌードを描くことができたジャンルでもありました。常にモラルと芸術表現との葛藤にあった裸体画へのエティやミレイ、レイトンらの果敢な取り組みとともに、マルリディらの素描をとおして、画家の基礎訓練として重要視されたヌード・デッサンについても紹介します。



フレデリック・ロド・レイトン『沐浴の女』 1861年発表 油彩/カンヴァス 189.2×62.2 cm

Top: Presented by the Trustees of the Chantrey Bequest 1890 image © Tate, London 2017

2

親密な眼差し

Private Nude

19世紀後半になると、物語に由来しない同時代の女性をモデルとしたヌードが、日常生活に根ざした室内空間で描かれるようになります。入浴する女性の身体へ眼差しを向けたドガやボナールの作品は、あたかもプライベートな空間をのぞき見ているかのような錯覚を与えます。一方で、モデルの個性を追求する画家たちの試みは、画家とモデルとの関係や作品の主題にも変化をもたらしました。ルノワールやマティスらは、モデルと親密な関係を築き、彼女たちを繰り返し描きました。またそうした制作が行われるアトリエ自体が、絵画の主題ともなりました。



エドガー・ドガ『浴槽の女性』 1883年頃 パステル/紙 70×70 cm

Top: Bequeathed by Mrs A. F. Keston 1983 image © Tate, London 2017

3

モダン・ヌード

The Modern Nude

ヌードそのものが、歴史や物語の文脈から離れて独自のジャンルを確立するに当たって、身体を新たな視点で捉え、造形的なアプローチを見出した表現がみられるようになります。ひとつの対象を複数の視点から捉えて再構成したキュビズムや、強い色彩で精神世界を反映したドイツ表現主義、人体の動きを幾何学的に表したヴォーティシズムなど、20世紀初頭は裸体表現の歴史において新たな展開をもたらしました。とりわけ彫刻においては、ムーアやジャコメッティらの抽象的な人体表現や、ヘップワースによる非西洋の文化を積極的に採り入れた作品など、革新的な造形がうみだされました。



ヘンリー・ムーア《倒れる戦士》 1956-57年頃(1957-60年頃鑄造) ブロンズ 65×154×85 cm

4

エロティック・ヌード

The Erotic Nude

愛し合う男女の姿を永遠にとどめたロダンの《接吻》。このモニュメンタルな作品は、発表当初から必ずしも称賛されたわけではありませんでした。20世紀初頭にイギリスで初めて展示されたとき、若者たちには刺激が強すぎると、彫刻はシーツで覆い隠されました。本章では、愛と性をテーマにした作品を、時代を超えて紹介します。ベッドルームの裸の男女をスケッチに留めたターナー、売春宿をのぞき見るかのような視点で表したピカソ、同性愛を描いたホックニー、また性行為における女性の優位性に言及したブルジョワなど、愛の行為に迫る芸術家たちのとり組みがみてとれます。



ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー 《ベッドに横たわるスイス人の裸の少女とその相手》「スイス人物」スケッチブックより 1802年 黒鉛、水彩／紙 16.3×19.8 cm

ターナーの貴重なヌード作品を公開!

ロダンの大理石像 《接吻》日本初公開

最も美しいエロティシズムのイメージを彫りだしたロダンの傑作、《接吻》。等身大を超える迫力の大理石像が、日本初公開となります。

主題に対する深い考察と、徹底したモデルの観察を通して、人間の本質的な姿を追求したロダン。情熱的に抱き合うふたりの姿には、高まる男女の感情が、大理石の滑らかな光沢とともに官能的に表現されています。そこには、ロダン自身にとって生きることの根源にあった、真実の愛の悦びが表されているといえるでしょう。

主題 — 愛し合う2人は誰？

ダンテの『神曲』「地獄篇」第5歌に登場するフランチェスカ・ダ・リミニと、夫の弟パオロ・マラテスタの悲恋の物語を題材としています。ふたりはアーサー王伝説の王妃グウィネヴィアと不義の恋に落ちる騎士ランスロットの物語を読む最中に、互いの愛を確認しますが、そこに突然表れたフランチェスカの夫によって、共に殺されます。パオロの左手に握られた本は、このエピソードを象徴しています。

3つの大理石彫刻《接吻》 — 美しい男女の身体

《接吻》は当初、1880年にフランス国家が制作を依頼した《地獄の門》の一部として構想され、その後ストーリーから独立した単体の像として石膏やブロンズで様々な大きさで制作されました。ロダンの生存中に制作された大理石像の《接吻》はわずか3体。いずれも等身大を超える迫力の大きさです。最初の作品は、1888年にフランス国家によって発注され、1898年にパリで展示されました[現・ロダン美術館蔵]。その後、それを見たふたりのコレクターにより、さらに2体が注文されました[現・ニュー・カールスベア美術館（コペンハーゲン）蔵および出品作]。大理石像ならではの白く磨き上げられた艶やかな肌合いは、理想的な男女の身体の美しさを際立たせています。

テートの《接吻》について — スキャンダルを巻き起こす

古代ギリシア彫刻のコレクターとして知られるイギリス在住のアメリカ人、エドワード・ペリー・ウォーレンによって発注されました。ギリシアのペンテリコン大理石を用い、3体のなかでも最も美しいといわれています。ロダンと交わした契約書には、「リュクサンブール美術館所蔵のオリジナル[現・ロダン美術館所蔵]と完全に同じに見えるように」「男性性器を完成させること」などの条件が記されています。^{*}1913年、《接吻》は市庁舎に貸し出されますが、不倫を扱ったうえエロティックすぎるという理由から騒ぎになり、シーツで覆い隠されました。ウォーレンの没後、コレクションの売り立てでは買い手がつかなかったものの、その後1953年にテートが購入しました。

^{*} Osbert Burdett and E. H. Goddard, *Edward Perry Warren*, London, 1941

オーギュスト・ロダン《接吻》(部分)
1901-4年 ペンテリコン大理石
182.2×121.9×153 cm
Tate: Purchased with assistance from
the Art Fund and public contributions 1953
image © Tate, London 2017



5

レアリズムとシュルレアリスム

The Realist and the Surrealist Nude

1920年代から1940年代にかけてのヌードの歴史では、シュルレアリスムとレアリズムというふたつの流派が主導しました。「性」と「無意識」に対して新しい理念をもちあわせたシュルレアリストは、伝統的な手法を用いながらも、切断されたヌードを意外な組合せで配置するなどして、夢や欲望といった未知の領域に踏み込むことで新たな表現を模索しました。一方、第一次世界大戦後、合理的・機能的な機械美に失望した画家たちは、現実を捉え、人間の身体に肉薄したレアリズムを追求します。自らの裸体を作品に登場させるなど、革新性に富んだ表現がうみだされました。



ポール・デルヴォー 《眠るヴィーナス》 1944年 油彩／カンヴァス 172.7×199.1 cm

Tate. Presented by Baron Urwater 1967, image © Tate, London 2017, ©Foundation Paul Delvaux, Sint-Idesbald-SABAM Belgium / JASPAR 2017 C1528

6

肉体を捉える筆触

Paint as Flesh

1950年代以降、絵画の筆触により人体の物質性と内面性を表した絵画が制作されます。20世紀最も重要な画家のひとりであるベーコンは、人間存在の根源にある不安や孤独を、デフォルメされた人物像に表しました。また抽象表現主義を代表する画家デ・クーニングは、激しい筆致で女性の身体を生々しく描きだし、フロイドは綿密な心的洞察に基づき、油彩を厚塗りしたヌード・ポートレートを作りました。一方、女性画家セシリー・ブラウンは、デジタル画像が溢れる現代において、物質的な絵具の質感を生かした大胆な筆触を復活させ、人体を表現します。



ルシアン・フロイド 《布切れの側に佇む》 1988-89年 油彩／カンヴァス 168.9×138.4 cm

The. Purchased with assistance from the Art Fund, the Friends of the Tate Gallery and anonymous donors 1990, image © Tate, London 2017 © Lucian Freud Archive/DeGruyter Images

7 身体の政治性

Body Politics

1970年代、美術における裸体表現が政治的主張の場となることがしばしばありました。フェミニズムの美術家たちは、男性の視点から女性を見るという伝統的なヌード表現にみるアンバランスな男女の力関係に真っ向から挑みます。女性画家シルヴィア・スレイは、男性のヌードを俯瞰する視点で描き、見る者と見られる者の関係を逆転させました。一方で、ハンナ・ウィルケが自らの裸体を表現に用いた写真作品や、ヘンドリックスやデュマらによる人種や性のテーマに言及した作品は、従来のヌードをめぐる限定的な視点に異を唱えました。



バークレー・L・ヘンドリックス《ファミリー・ジュール：NNN [ノー・ネイキッド・ニガー（裸の黒人は存在しない）】》1974年 油彩／麻布 168.1×183.2 cm



Take Purchased 1983. Image © Tate, London 2017. ©Courtesy of the artist and Metro Pictures, New York.

8

儂き身体

The Fragile Body

シンディ・シャーマン《無題》1982年 タイプCプリント 114.3×76.2 cm

1980年代以降、儂く移ろいゆくものとしてヌードを捉える、大判の写真作品が制作されます。物質的に老いゆく自らの身体を厳格な眼差しで捉えたコプランズ、出産後間もない女性が誕生したばかりの命を抱く姿を捉え、脆くも不屈の強さを写し出したダイクストラ。シャーマンはグラビア写真に想を得て、男性の視線をなぞら

えて、自らがカメラの前でポーズをとることで、社会における固定された女性のイメージに疑問を投げかけます。一方で、ヌードのモデルを見て言語化するというライブ・パフォーマンスのち、その言葉を書き連ねたバナーの作品は、ヌードに対する視点を鑑賞者と共有する、新しい表現のかたちを示唆しています。

本展覧会において私たちが目指したのは、テート・コレクションの多様な魅力を伝える厳選された作品を通して、200年にわたる芸術家たちの裸体表現のストーリーを伝えることです。

本展は、人間の姿かたちに対して時代とともに変化してきた趣味嗜好を浮かび上がらせます。そこから私たちは、作家の心理や修練、個々の主張、あるいは西洋美術の歴史や社会背景などを知るようになるのです。アカデミックな習作や理想的な美の提示、あるいは様式化された慣習を暗示する作品もあれば、一方でそれらに挑戦するような作品もみられます。

この度、日本の皆様にテート・コレクションをご覧頂く機会を得て、ヌードをテーマとした、広範で挑戦的ともいえる本展覧会をご紹介できることを嬉しく思います。

キャロライン・コリア
テート パートナーシップ・プログラム・ディレクター

本展覧会の企画を通して、テートのコレクションを再発見するとともに、作品を新しく刺激的な方法で展示する素晴らしい機会を得ました。ヌードは、何世紀にもわたり芸術家たちが取り組んできた最も重要なテーマであり、人間とは何かということへの理解へと誘うのです。

エマ・チェンバース
テート 学芸員、本展覧会監修者



ピエール=オーギュスト・ルノワール《ソファに横たわる裸婦》 1915年 油彩/カンヴァス 54.4×65.3 cm

大英博物館、ナショナル・ギャラリーなどと並ぶ、英国を代表する国立美術館のひとつです。1500年から現代に至る英国美術を展示するテート・ブリテン、国内外の近現代美術を展示するテート・モダン、テート・リバプール、テート・セント・アイヴスの4つの施設から成り、約7万点のコレクションを有しています。その充実したコレクションのみならず、幅広いテーマを扱う展覧会や、国内外での先進的な活動によって、常に注目を集めています。

1889年、実業家で英国美術の収集家であったヘンリー・テートが、英国美術のための美術館建設を発案し、1897年に国立美術館として開館されました。4つの施設での年間来場者数の合計は約660万人を記録しています*。

*2015-16 テート・レポートより



テート・モダン



テート・ブリテン

2016年11月にシドニーで始まった本展は、オークランド、ソウルへと舞台を移し、多くの話題と反響を呼んでいます。そして、2018年3月にいよいよ日本へ上陸します。

2016年11月5日～2017年2月5日 ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館（シドニー、オーストラリア）
2017年5月18日～7月16日 オークランド・アート・ギャラリー（オークランド、ニュージーランド）
2017年8月11日～12月25日 ソマ美術館（ソウル、韓国）



シドニー展会場風景

ヌード NUDE

英国テート・コレクションより
ART FROM THE TATE COLLECTION

会場 横浜美術館

会期 2018年3月24日(土)～6月24日(日)

開館時間 10:00～18:00

*ただし、5月11日(金)、6月8日(金)は
20:30まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 木曜日、5月7日(月)

*ただし5月3日(木・祝)は開館

主催 横浜美術館、読売新聞社、テート

協力 日本航空

後援 ブリティッシュ・カウンシル、J-WAVE

観覧料(税込)

一般

¥1,600 [1,400 / 1,500]

大学・専門学校生

¥1,200 [1,000 / 1,100]

中学・高校生

¥600 [400 / 500]

※小学生以下無料 ※65歳以上は¥1,500(要証明書、美術館券売所でのみ対応) ※[]内は前売および有料20名以上の団体料金(美術館券売所でのみ販売、要事前予約 TEL: 045-221-0300) ※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方(1名)は無料 ※前売券は、2018年1月20日(土)～3月23日(金)まで、横浜美術館、展覧会公式サイト、チケットぴあ、ローソンチケットほか、主要プレイガイドにて発売。

展覧会公式サイト

<http://nude2018.yomiuri.co.jp/>

展覧会公式 Twitter

@nude2018

お問合せ(ハローダイヤル)

03-5777-8600

横浜美術館

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1

TEL: 045-221-0300 (代)

FAX: 045-221-0317

<http://yokohama.art.museum>

アクセス

●みなとみらい線(東急東横線直通)「みなとみらい駅」3番出口から徒歩3分 ●JR線、横浜市営地下鉄線「桜木町駅」から「動く歩道」を利用、徒歩10分

本展広報に関するお問い合わせ先

「ヌード NUDE」広報事務局(ウイングダム)

担当: 梶(くぬぎ)、沼澤(ぬまざわ)

TEL. 03-6661-9448 FAX. 03-3664-3833

e-mail: nude2018@windam.co.jp

〒103-0014

東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 4F



デイヴィッド・ホックニー 《23, 4歳のふたりの男子》C.P. カヴァフィスの14編の詩のための挿絵より
1966年 エッチング、アクアテント/紙 34.5×22.3 cm

Tate Purchased 1990 © David Hockney



YOKOHAMA MUSEUM OF ART
横浜美術館